

モデルコース① 信時流武田氏 甲斐府中への道

武田信玄「まで」の三百年 甲斐国を駆け抜けた武田家の足跡を辿る

甲斐国守護・武田信玄の直接の祖は、甲斐武田家第7代当主の武田信時(1220-1289年)とされ、その系譜は「信時流武田氏」とも称されます。秩父往還の沿線には信時流武田氏に関わりの深いスポットが幾つも分布し、信虎-信玄-勝頼に連なる一族の潮流を辿ることができます。

武力・権力を争う支配者であると同時に、寺社の庇護者であり信仰の実践者でもあった信時流武田氏のサムライたちは、この地に様々な文化と歴史を遺しました。一族に関わりの深い寺社、あるいは居館の痕跡から、彼らは現在の甲州市、山梨市、笛吹市、甲府市を活動の中心とし、また時代の経過と勢力の伸張に伴って、その重心を徐々に西へと移していったことが伺えます。時を越えて一族の足跡をつなぐのが、この地を東西に貫く歴史の道、秩父往還です。

コース概要

S塩山駅付近 **G**甲府駅付近
距離：約40km/所要時間：約7時間(マイカーまたはレンタカー利用)

その他 関連情報

- 武田氏について知識を深めたい → 甲府市武田氏館跡歴史館 信玄ミュージアム
- 甲府五山や甲斐武田家について知りたい → 甲府五山をめぐる(甲府市モデルコース)
武田家の足跡を巡ってみよう(甲府観光ナビ)
- 甲府駅周辺を散策したい → 甲府山の手七福神めぐり(甲府市 モデルコース)
甲府駅近中心街で飲み歩き!(甲府観光ナビ)



慈徳院

甲斐武田家第12代当主の武田信春(生年不詳-1413年)の居館(千野館)があったとされ、同地の区割りや周辺の水路・土塁跡、付近の「南小路」「前小路」「的場」「大門」等の地名から、その痕跡をうかがうことができます。なお、境内には信春の供養塔もあります。



向獄寺

甲斐武田家第11代当主の武田信成(生年不詳-1394年)が塩ノ山(甲州市塩山)を寺領に寄進し、ここに禅僧の抜隊得勝が草庵「向獄庵」を結びました。同庵は後に臨済宗向獄寺派の本山「向獄寺」となります。第14代当主の武田信重(1386-1450年)以降には、向獄寺に保護を与えることが甲斐武田氏の正嫡たる証となったようです。
※特別公開日を除き、諸堂・庭園とも非公開



大井俣窪八幡神社

859(貞観元)年に清和天皇の勅願により宇佐八幡宮が勧請され、その後平安時代末期に現在の地に遷座しました。第18代当主の武田信虎の時代、1516(永正13)年の駿河今川勢の侵襲により戦火にさらされましたが、信虎・信玄は神社の復興を支援し、また折願社として篤く崇敬しました。境内の構成は戦国時代とはほぼ同一であり、当時の雰囲気を感じることが出来ます。



永昌院

甲斐武田家第16代当主の武田信昌の菩提寺であり、境内には信昌の墓所が残されています。信昌の従兄弟であり、帝から禅師号を与えられた名僧でもあった、一筆文英が開基しました。かつては甲州から武州にかけて96の末寺を有し、修行所として80人ほどの修行僧が暮らしました。高台に位置する境内からの眺望は、関東富士見百景に指定されています。



信虎誕生屋敷(岩下氏館跡)

甲斐武田家の第18代当主、武田信虎(1494-1574年)は先代以来の家督争いを決着させて武田家を統一し、後には国内の他勢力を下して甲斐国統一を成し遂げました。その出生地がこの地であり、信虎の母(岩下越前守の妹)の実家であったとの説があります。2001(平成13)年に実施された発掘調査では、屋敷の痕跡として掘立柱建築跡の一部などが確認されました。



武田神社

武田信虎が築き、信虎・信玄・勝頼の3代が62年間居住した居館「躰躰が崎館」の跡地に、1919(大正8)年に創建された神社で、祭神として信玄を祀ります。境内には躰躰が崎館があった当時の堀、土塁、石垣、古井戸などが残るほか、宝物殿には太刀「吉岡一文字」を筆頭に、武田氏ゆかりの鎧・甲冑・刀剣などが展示されています。



川田館跡

武田信虎は1518(永正15)年から翌年にかけて、甲斐府中、すなわち城下町「甲府」を整備し、躰躰が崎館を築きます。それ以前に信虎が本拠としたのが川田館でした。館は信虎が築いたとする説と、信虎の祖父である信昌が築いたとする説があります。周辺には「御所曲輪」「御殿屋敷」など城館に関わる地名のほか、堀や土塁の痕跡も残っています。



積翠寺

奈良時代に行基が開いたとされ、のちに寺号を積翠寺と改めました。1521(大永元)年、武田信虎夫人が戦火を逃れて避難した積翠寺で信玄を産んだとの説があり、境内には産湯に使ったとされる井戸が残っています。

要害山

甲府市街の北北西、扇状地の起点に位置する標高780mの山で、山梨百名山の1つです。躰躰が崎館が造営された翌年に、信虎により詰城が築かれました。山中には曲輪や主郭部、堅堀などの痕跡が残されています。



能成寺

甲斐武田家第15代当主の武田信守(生年不詳-1455年)が禅師・薬海本浄を開山に迎え、室町時代の貞和年間(1345-1350年)に開基しました。境内には信守の墓所が残ります。開山当時は笛吹市八代にあり、その後甲府市西青沼を経て現在地に移ったと伝わります。



法泉寺

甲斐武田家当主の武田信武(1292(1303)-1359(1362)年、生没年異説あり)を開基、夢窓疎石を開山とする寺院です。境内には信武の墓所のほか、1582(天正10)年に天目山の戦いに破れ、武田家最後の当主となった武田勝頼の墓所も置かれています。信武は南北朝時代初期の争乱の中で、時の將軍足利尊氏の信賴を勝ち取り、甲斐守護職の補任を得ました。以降、甲斐守護職は信武の嫡流に継承されていくことになります。その活躍から後に信武は「武田家中興の祖」とも称され、信玄は法泉寺に大修理を施し、寺領を寄進しました。

